

# 取扱説明書

全頁 24

題 目

吸引式高感度煙検知システム SAS

頁 1

## 0. 適用

本取扱説明書は次の製品からなる吸引式高感度煙検知システムに適用します。

- ・ SAS11-QY03-XX
- ・ SAS11-QY01-XX
- ・ SAS11-Y

お買い上げいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と本システムの取扱い方を示しています。

ご利用の前にこの取扱説明書をよくお読みの上、よく理解してお使い下さい。お読みになった後は、いつでも見られるところに、必ず保管して下さい。

△1	S8	品番、及び SAS11-QY03 の感度補正時間の誤記を訂正	HR13290	S.Masumoto	M.Kuroki	K.Sato	14/10/2	
△2	S13	復旧スイッチと音響停止スイッチの番号誤記を訂正		S.Masumoto				
△								
△								
△								
SYM	SHEET	DESCRIPTION			REVISED	CHKD BY	APPD BY	ISSUEDBY
承 認		照 査		照 査	作 成		<b>ES1348</b>	<b>K</b> <b>2</b>

 **日本フェンオール株式会社**

## 目次

0. 適用.....	1
1. 吸引式高感度煙検知システムの概要.....	5
1-1. システムの構成.....	5
1-2. システム系統図.....	5
2. 仕様.....	6
2-1. 吸引式煙検知モジュール.....	6
2-1-1. 各部の名称と機能.....	6
2-1-2. 電氣的仕様.....	8
2-1-3. 機械的仕様.....	8
2-1-4. 環境仕様.....	9
2-2. 吸引受信盤.....	10
2-2-1. 各部の名称と機能(機構部分).....	10
2-2-2. 各部の名称と機能(表示部、及び制御基板).....	11
2-2-3. 各部の名称と機能(端子基板).....	13
2-2-4. 電氣的仕様.....	15
2-2-5. 機械的仕様.....	15
2-2-6. 環境仕様.....	16
3. 機器の起動及び終了手順.....	17
3-1. 起動.....	17
3-2. 終了.....	17
4. 設定.....	18
4-1. PC との接続とソフトウェアの立上げ.....	18
4-2. 風速値の設定.....	19
4-3. アラーム設定値、プリアラーム設定値の設定.....	19
5. アラーム/プリアラーム/ゾーンアラーム表示.....	21
5-1. アラーム.....	21
5-2. プリアラーム.....	21
5-3. ゾーンアラーム.....	21
6. トラブル表示.....	22
7. 保守点検及び交換部品.....	22

## 保証期間と保証範囲

### 【保証期間】

本製品の保証に関しては、取扱説明書に従った正常な使用状態において発生した故障に限り、ご注文主の指定納入先に納入後1年間保証致します。

### 【保証範囲】

上記保証期間中の納入者側の責により本製品に生じた故障に関しては、返品修理を納入者側の責任において行います。但し、つぎに該当する場合は、この保証の対象から除外させていただきます。

- ① 火災、地震、風水害、落雷及びその他の天災等による故障及び損失。
- ② 出荷後、貴社での輸送や移動及び落下等、不適切な取り扱いによる故障及び損失。
- ③ 故障の原因が納入品以外の事由による場合。
- ④ 需要者の使用上の誤り、弊社以外での修理、改造、誤接続による故障及び損失。
- ⑤ リレー接点の磨耗、溶着によるリレー部品の寿命の場合。

なお、ここで言う保証は納入品単体の保証を意味するもので納入品の故障により誘発される損害はご容赦頂きます。

## 安全にお使いいただくために

- ご使用前にこの「安全にご使用いただくために」をよくお読みの上、正しくお使い下さい。
- 危害や損傷の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをした場合に生じる内容を「警告」、「注意」の2つに区分しています。



警告

取扱いを誤った場合、使用者が重傷や傷害を負うか、又は機能の一部に重大な悪影響を及ぼすことが規定される場合。



注意

取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うか、あるいは機能に悪影響を及ぼす可能性がある場合、及び機能を長期間にわたって有効に活用する上で、是非守ってほしい事項。

- 安全上のご注意として、下記事項をお守り下さい。



警告

- 絶対に機器の分解や、修理・改造をしないで下さい。故障の原因となります。
- 検知器は絶対に取り外さないで下さい。出火時に火災が発見できません。
- 落下や衝撃を加えた機器は使用しないで下さい。また機器を塗装する、覆う等の行為を行わないで下さい。
- 機器に水につけたり、水をかけたりしないで下さい。故障、感電の恐れがあります。
- 本取扱説明書に記載されていない方法での、お取扱やご使用はお止め下さい。誤作動や故障の原因となります



注意

- 本システムは火災の発生を報知するもので、火災の防止や、消火を行うものではありません。
- 機器を設置する場所は環境仕様内として下さい。不適切な場合は誤作動や故障の原因となります。
- 検知器の下で、多量に煙の発する物を使用しないで下さい。

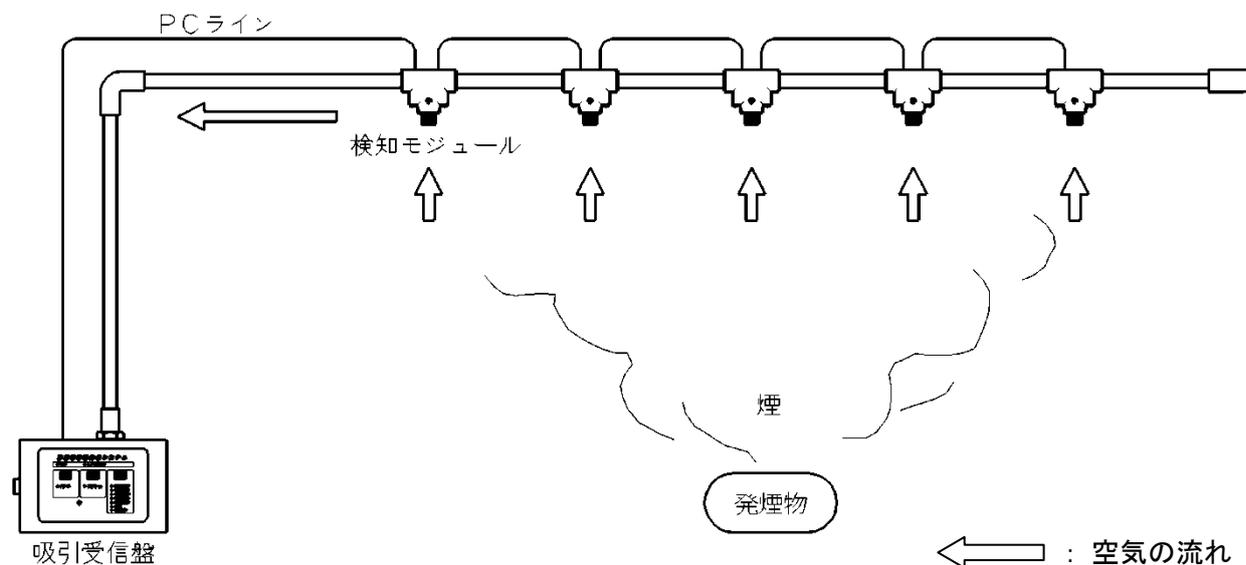
## 1. 吸引式高感度煙検知システムの概要

### 1-1. システムの構成

本システムは次の機器により構成されています。

- 吸引式煙検知モジュール(以下、検知モジュール)  
警戒区域内の煙の検知を行います。
- 吸引受信盤(以下、受信盤)  
検知モジュールの制御を行うと共に、検知モジュールからの火災やトラブルの信号を表示します。また、受信盤内部に吸引用のファンが内蔵されており、このファンの吸引圧力が吸引管を通して検知モジュールへ伝搬することで、検知モジュールの煙の吸引が可能となります。
- 吸引管  
各検知モジュールへ吸引ファンの吸引圧力を伝搬するための配管です。
- PCライン  
受信盤と検知モジュール間の通信線です。

### 1-2. システム系統図



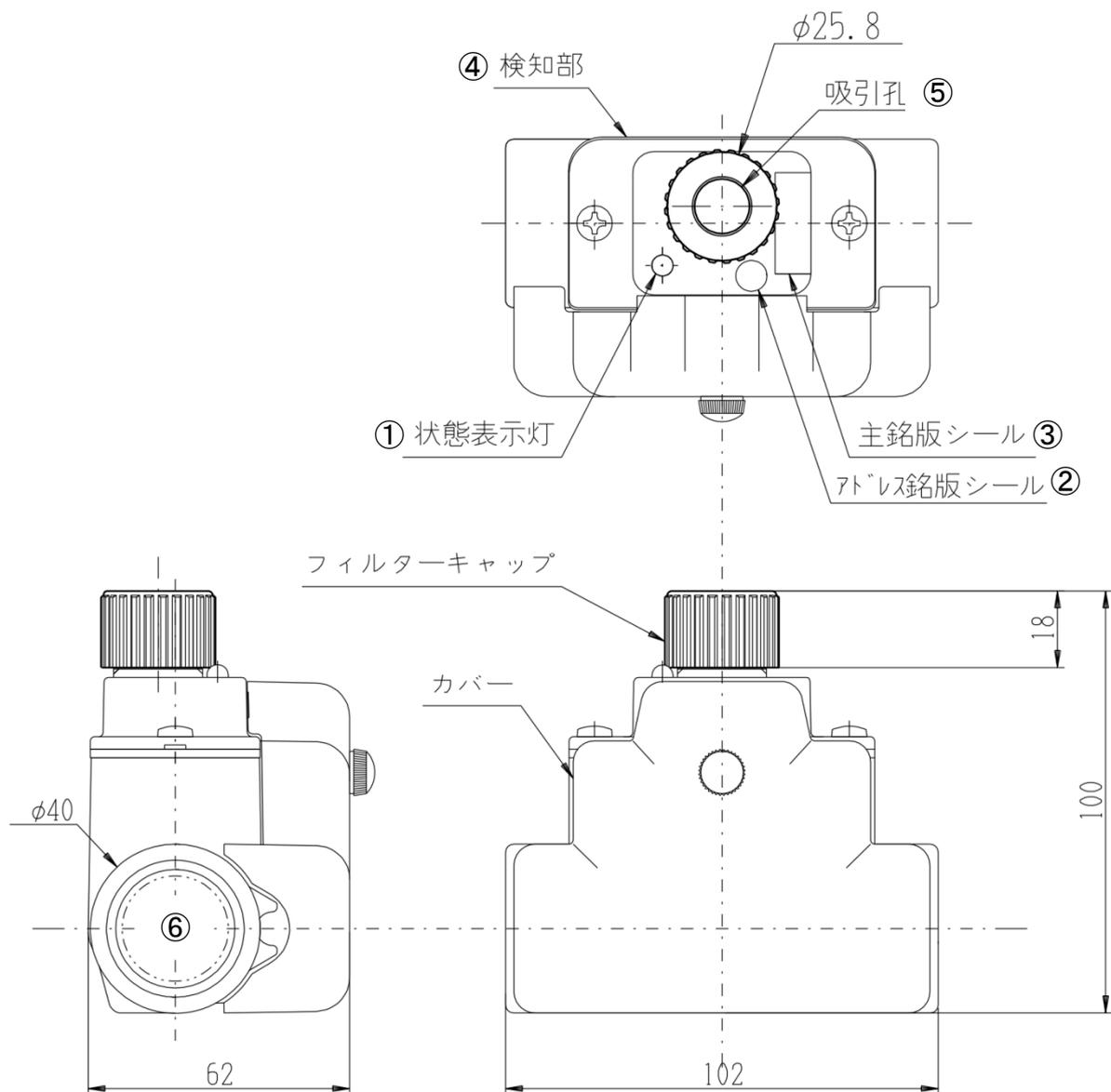
上図のように発煙物から煙が発生すると、吸引管に取付けられた吸引式煙検知モジュールへ煙が吸い込まれて煙が検知されます。検知モジュールは煙の検知情報を吸引受信盤へPCラインを通して送り、吸引受信盤はその情報に基づきプリアラームおよびアラームの表示と警報音の鳴動、接点出力による移報出力などを行います。

## 2. 仕様

### 2-1. 吸引式煙検知モジュール

本項では吸引式煙検知モジュール(SAS11-QY03 及び QY01)の仕様について説明します。

#### 2-1-1. 各部の名称と機能



#### 1. 状態表示灯

- ・正常監視状態 約 10 秒に1回ずつ点滅します。点灯時間は約 0.01 秒です
- ・アラーム状態 約 2 秒に1回ずつ点滅します。点灯時間は約 0.01 秒です
- ・トラブル状態 消灯します。

#### 2. アドレス銘板シール

検知モジュールのアドレスを表します。

#### 3. 主銘板シール

検知モジュールの品番や製造番号等を表します。

#### 4. 検知部

煙センサが内蔵されています。

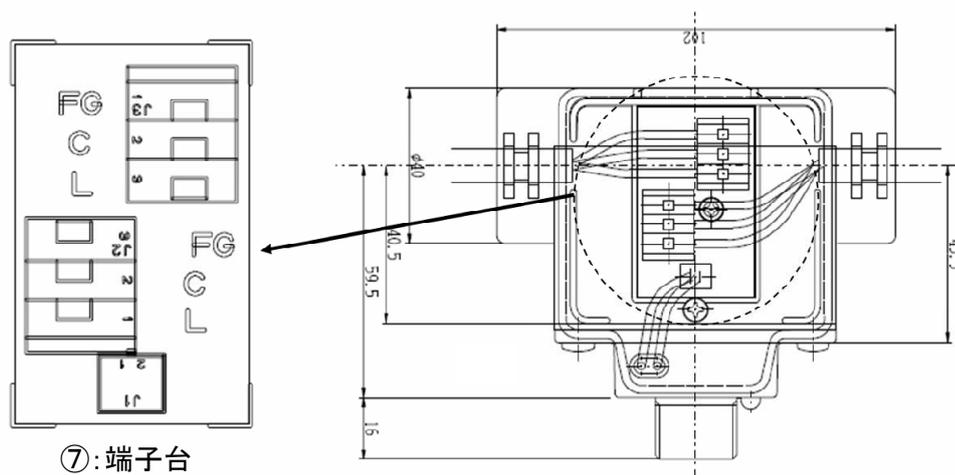
#### 5. 吸引孔

煙の流入口です。

#### 6. 配管挿入部

25Aの配管を挿入します。

(カバーの内側:端子台部分)



⑦:端子台

#### 7. 端子台

- ・L 及び C 部      PC ラインの信号線の差し込み口です(無極性)。
- ・FG 部            PC ラインのシールド線の差し込み口です。

なお、端子台の仕様は次の通りです。

端子台型番	: OCN-050(差し込み式端子台、株オサダ製)
使用可能電線サイズ	: AWG28~14

## 2-1-2. 電氣的仕様

種別	吸引式煙検知器	
品名	吸引式煙検知モジュール	
品番 ※1	SAS11-QY03-XX	SAS11-QY01-XX
アラーム設定値 ※2	0.3%/m ~ 3.0%/m	0.1%/m ~ 0.5%/m
定格	DC24V 1.0mA(吸引受信盤から供給)	
使用電圧範囲	DC21.6V~DC26.4V	
消費電流 (DC24V 印加時)	監視時 : 0.80mA 以下 アラーム発生時 : 0.90mA 以下	
状態表示灯 (赤色 LED)	監視時 : 約 10 秒に1回点滅 アラーム発生時 : 約 2 秒に1回点滅 トラブル発生時 : 消灯 アラーム状態はトラブル状態より優先される。	
自動試験機能 (感度自動補正)	検知モジュールは光学系部品の汚れや劣化による感度変化を自動的に補正し、補正量が限界に達するとトラブル状態になる。なお、補正する間隔は機種によって異なる。 SAS11-QY03 : 1 日に 1 回 SAS11-QY01 : 1 時間に 1 回	
アドレス	01~63 の範囲で設定。アドレスは EEPROM 内に記憶。EEPROM に異常があれば、トラブル状態となる。	
接続制御機器	吸引受信盤 (SASC1-Y)	

※1 XXはアドレスを指定。アドレス銘板に明記

※2 公称値。0.05%/m 刻みで設定可能

## 2-1-3. 機械的仕様

外形寸法	高さ 100mm × 横 102mm × 奥行 62mm
主材質	ABS(UL94V-0)
本体色	白
質量	約 180g

## 2-1-4. 環境仕様

使用温度範囲	-10°C~50°C
保存温度範囲	-20°C~70°C
使用湿度範囲	30~85%RH ただし、結露無き事
耐腐食性雰囲気	酸、アルカリ性に対する耐性は有しない。



警告

環境仕様を越える場所や、揮発ガス、腐食性ガスの発生する場所では使用しないで下さい。誤動作及び故障の原因になります。



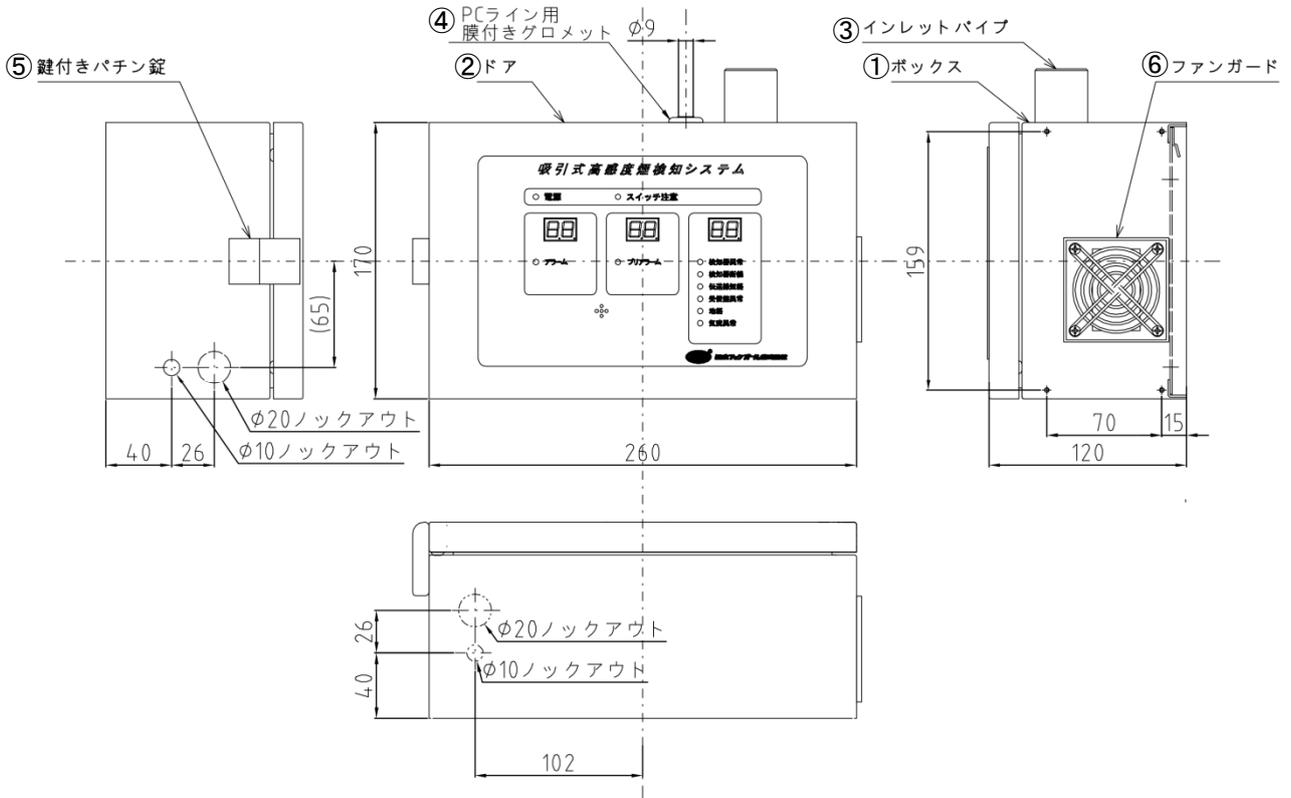
注意

使用温度、湿度は機器の寿命に影響します。  
ディレーティングを考慮してご使用下さい。

## 2-2. 吸引受信盤

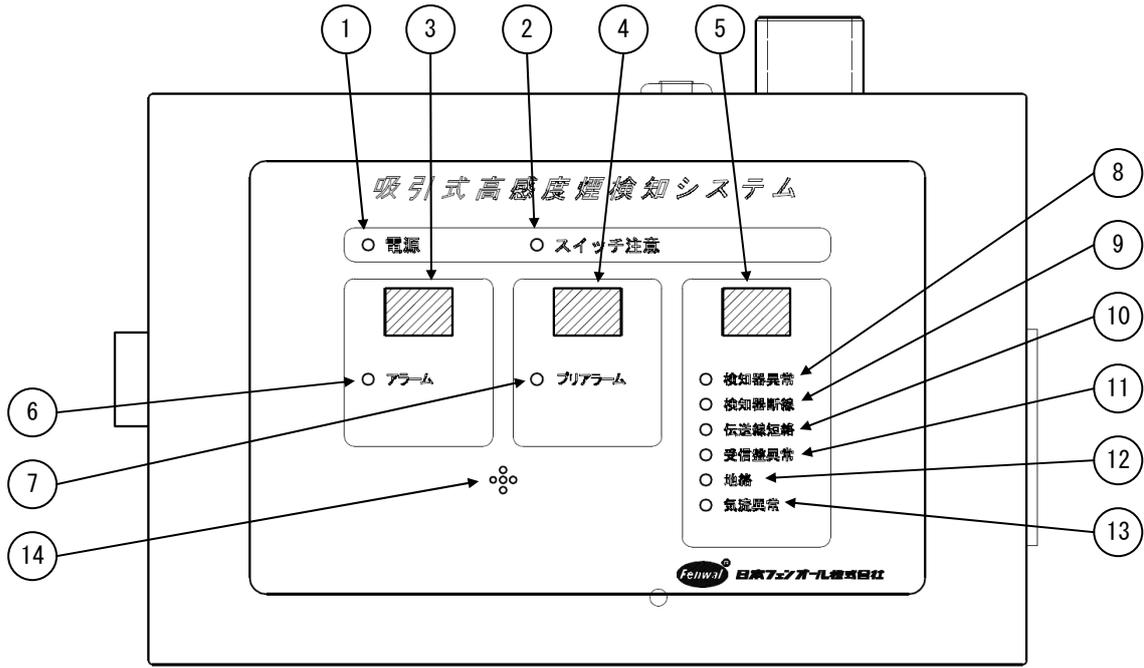
本項では吸引受信盤の仕様についてご説明します。

### 2-2-1. 各部の名称と機能(機構部分)

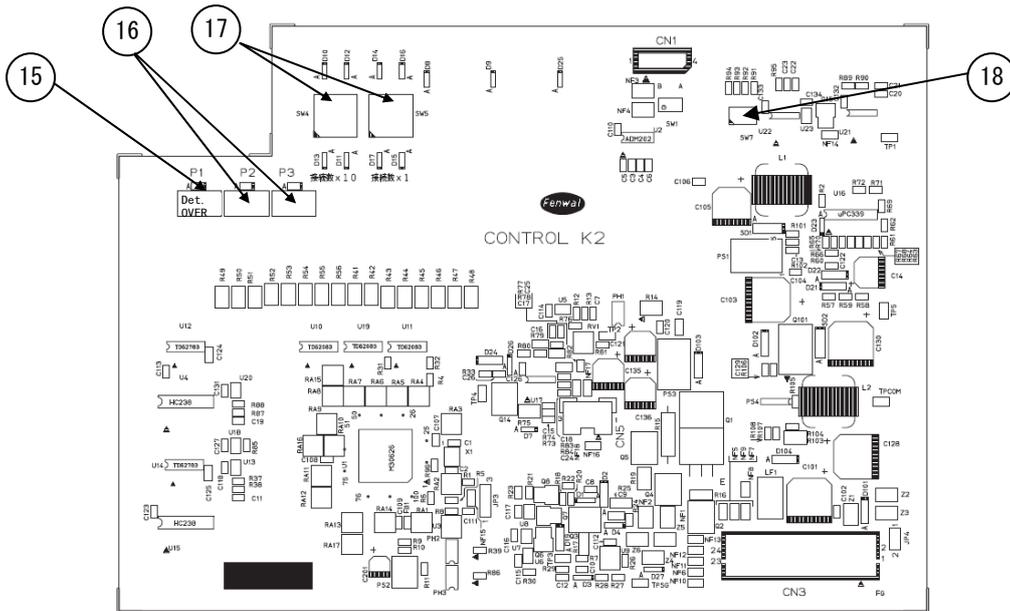


- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボックス</li> <li>2. ドア</li> <li>3. インレットパイプ</li> <li>4. PCライン用膜付グロメット</li> <li>5. 鍵付きパチン錠</li> <li>6. ファンガード</li> </ol> | <p>端子基板、電源、吸引用ファン等が内蔵されています。</p> <p>制御基板が裏側に取り付けられています。</p> <p>付属のユニオンを介して吸引配管を接続します。</p> <p>PCライン挿入口からのホコリの侵入を防ぎます。</p> <p>扉の錠です。付属の鍵でロックすることができます。</p> <p>指が回転中のファンに接触することを防ぎます。</p> |
|--|--|

2-2-2. 各部の名称と機能(表示部、及び制御基板)



吸引受信盤正面

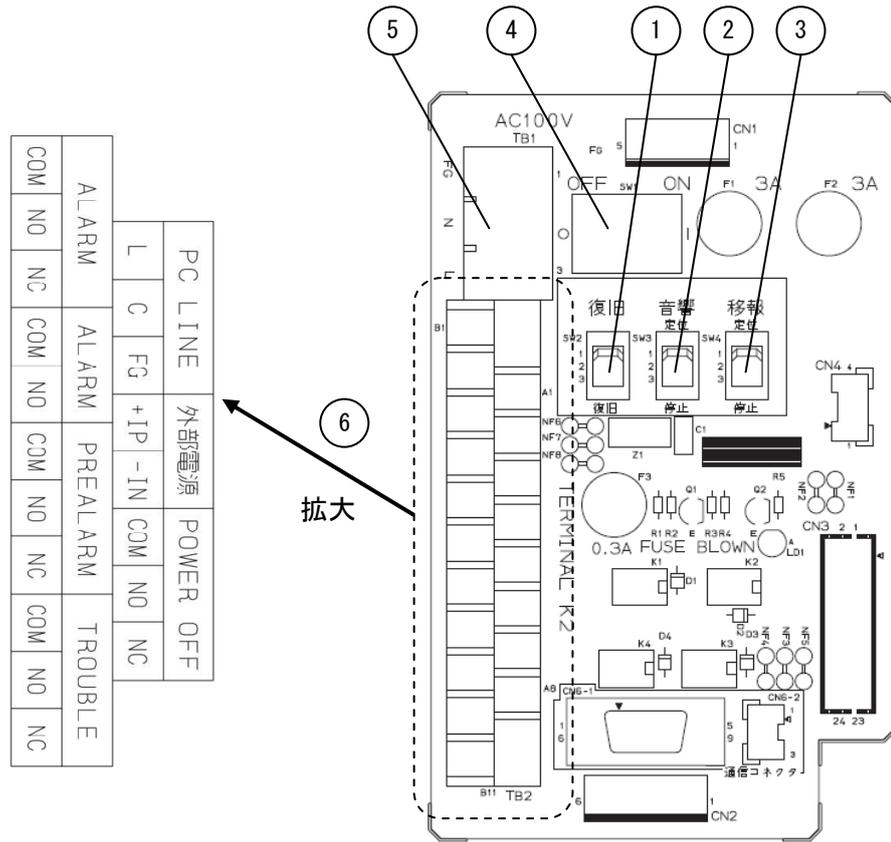


CONTROL 基板 (扉裏に取り付け)

1. 電源灯(緑)  
電源が正常に投入されている場合に点灯します。
2. スイッチ注意灯(黄)  
音響停止中および移報停止中に点滅します。
3. アラームアドレス表示窓(赤)  
アラーム状態になっている検知モジュールのアドレスを2桁で表示します。  
アラーム状態のアドレスが複数ある場合は、第1報のアドレスにドット(点)の表示を付加し、以降のアドレスはアラームが発生した順に2秒毎のスクロール表示を行います。

4. プリアラームアドレス表示窓(赤)  
プリアラーム状態になっている検知モジュールのアドレスを表示します。  
プリアラーム状態のアドレスが複数ある場合は、第 1 報のアドレスにドット(点)の表示を付加し、以降のアドレスはプリアラームが発生した順に 2 秒毎のスクロール表示を行います。
5. トラブルアドレス表示窓(赤)  
トラブル状態になっている検知モジュールのアドレスを 2 桁で表示します。  
トラブル状態のアドレスが複数ある場合は、第 1 報のアドレスにドット(点)の表示を付加し、以降のアドレスはトラブルが発生した順に 2 秒毎のスクロール表示を行います。
6. アラーム灯(赤)  
接続されているいずれかの検知モジュールがアラーム状態の場合に点灯します。
7. プリアラーム灯(橙)  
接続されているいずれかの検知モジュールがプリアラーム状態の場合に点灯します。
8. 検知器異常灯(黄)  
接続されているいずれかの検知モジュールがトラブル状態の場合に点灯します。
9. 検知器断線灯(黄)  
接続されていた検知モジュールが断線状態の場合に点灯します。
10. 伝送線短絡灯(黄)  
PC ラインがショートしている場合に点灯します。
11. 受信機異常灯(黄)  
受信機に異常が発生している場合に点灯します。
12. 地絡灯(黄)  
受信機内部の電源が地絡している場合に点灯します。
13. 気流異常灯(黄)  
ブローファンの風量が設定値の範囲から外れている場合に点灯します。
14. ブザー(内蔵)  
検知モジュールがアラーム状態の場合に連続鳴動となります。  
検知モジュールがプリアラーム状態およびトラブル状態の場合に断続鳴動となります。  
盤内の音響停止スイッチを下側に倒すとブザーは停止します(音響停止状態)。  
ブザーの鳴動はアラームが優先されます。
15. 表示灯P1(黄)  
接続された検知モジュールの数が検知器接続数設定スイッチの設定より多い時に点灯します。
16. 表示灯P2、P3(黄)  
使用しません。
17. 検知器接続数設定スイッチ  
接続する検知モジュールの数を設定するためのスイッチです。
18. ブローファン設定スイッチ  
ブローファンの回転数を設定するためのスイッチです。

2-2-3. 各部の名称と機能(端子基板)



TERMINAL 基板 (筐体内)

COM	ALARM	L	PC LINE	
NO	ALARM	C	外部電源	POWER OFF
NC	ALARM	FG	+IP	-IN
COM	PREALARM	COM	NO	NC
NO	PREALARM	NO		
NC	PREALARM	NC		
COM	TROUBLE			
NO	TROUBLE			
NC	TROUBLE			

拡大

1. 復旧スイッチ(赤)

復旧スイッチを下側に倒すと、各種状態表示灯、移報出力、ブザー鳴動をリセットします。但し、アラームやトラブルが継続している場合は、復旧後に再度それらの状態に移行します。

復旧スイッチの操作毎に、検知モジュールへの試験を実行します。この試験は、検知モジュールが擬似的にアラーム状態となり、吸引受信盤と検知モジュール間でアラーム伝送を行う試験です。

リセット中は、パネル面の LED 灯及び 7seg LED の各 LED が順に点滅します。

2. 音響停止スイッチ(白)

音響停止スイッチを下側に倒すとパネル面のスイッチ注意灯が点滅してブザーの鳴動が停止します。

音響停止スイッチが下側に倒れている状態では新たなアラーム、プリアラーム、トラブルが発生してもブザーは鳴動しません。

3. 移報停止スイッチ(白)

移報停止スイッチを下側に倒すとパネル面のスイッチ注意灯が点滅して外部への移報出力を停止します。ただし、電源断移報を除きます。

4. 主電源スイッチ(黒)

吸引受信盤の電源の ON/OFF 時に使用します。

5. TB1(主電源)端子台

AC100Vの電源線を接続します。

端子台型番 : OTB-570-3P(株オサダ製)

ネジサイズ : M4

6. TB2(外線)端子台

PCラインや、移報線などを接続します。

端子台型番 : OTB-6287-M-19P(株オサダ製)

ネジサイズ : M3.5

- PCライン接続端子  
PCラインの信号線をLとCに、シールド線をFGに接続します。なお、信号線は無極性です。
- 外部電源  
DC24Vの電源を外部に供給します。消費電流は0.3A以下で使用できます。
- 移報接点は次の表の通りです。

	内容	接点の種類	接点容量 (抵抗負荷時)
POWER OFF	電源断移報 電源投入中リレーを励磁	C接点	DC30V 1A または AC125V 0.3A
ALARM	アラーム一括移報。 アラーム状態でリレーが駆動します。	C接点	
ALARM	アラーム一括移報。 アラーム状態でリレーが駆動します。	A接点	
PREALARM	プリアラーム一括移報。 プリアラーム状態でリレーが駆動します。	C接点	
TROUBLE	トラブル一括移報。 トラブル状態でリレーが駆動します。	C接点	

## 2-2-4. 電氣的仕様

種別	吸引受信盤
品名	吸引受信盤
品番	SASC1-Y
定格	AC100V 50/60Hz 80W
使用電圧範囲	AC85V～AC132V
検知器回路電圧 (PC ライン)	DC21.6V～DC26.4V
外部配線抵抗	10Ω 以下(受信盤～検知モジュール間往復)
検知器最大接続数	31 個(使用可能な検知モジュールのアドレスは1～63)
接続検知器数設定方法	盤内基板上より2桁デシマルスイッチにより設定(設定数範囲1～31)
吸引ブローファン	最大静圧 :1280Pa 最大風量 :1.61 m <sup>3</sup> /sec
警報ブザー音圧	70dB/m 以上
立ち上がり時間	電源投入後、最大で2分後に監視を開始
警報音	アラーム時 :連続鳴動 プリアラームおよびトラブル時 :断続鳴動(連続鳴動優先)
外部インターフェース	RS-232C インターフェース 1ch (D-sub 9pin オス)
外部電源	DC24V 0.3A
移報出力	接点容量 :DC30V 1A もしくは AC125V 0.3A(抵抗負荷) 接点構成 アラーム一括 A接点及びC接点 プリアラーム一括 C接点 トラブル一括 C接点 電源断 C接点

## 2-2-5. 機械的仕様

外形寸法	高さ 170mm × 横 260mm × 奥行 120mm(突起部除く)
主材質	SPCC t=1.2mm
色	クリーム色 (社)日本塗料工業会 2007年D版 塗料用標準色 D22-90B
質量	約 4.1kg

## 2-2-6. 環境仕様

使用温度範囲	0°C～50°C
保存温度範囲	-20°C～70°C
使用湿度範囲	30～85%RH (ただし、結露無き事)
耐ノイズ性	a) 500V パルス幅 1 $\mu$ sec 繰返し周期 100Hz b) 500V パルス幅 0.1 $\mu$ sec 繰返し周期 100Hz を各々PCラインに15秒印加して異常なきこと



警告

- ・ 環境仕様を越える場所や、揮発ガス、腐食性ガスの発生する場所では使用しないで下さい。誤動作及び故障の原因になります。
- ・ 屋外では使用しないでください



注意

使用温度、湿度は機器の寿命に影響します。  
ディレーティングを考慮してご使用下さい。

### 3. 機器の起動及び終了手順

本項では本システムの起動及び終了手順についてご説明します。

#### 3-1. 起動

- ① AC100V が正しく供給されていることを確認します。
- ② 「TERMINAL 基板」の SW1 を投入します。
- ③ プロアファンが回転を始め、パネル面の LED 灯及び 7seg LED の各 LED が高速で点滅します。
- ④ パネル面の LED 表示の高速点滅が終了すると監視状態になります。監視状態になるまで、最大で約 2 分です。

#### 3-2. 終了

- ① 「TERMINAL 基板」の SW1 を OFF にします。
- ② 必要に応じて、AC100V(主電源)を遮断します。



本システムは止むを得ない事情がない限りは終了しないでください。警戒区域の煙の検知が行えなくなるため、重大な事故を引き起こす恐れがあります。



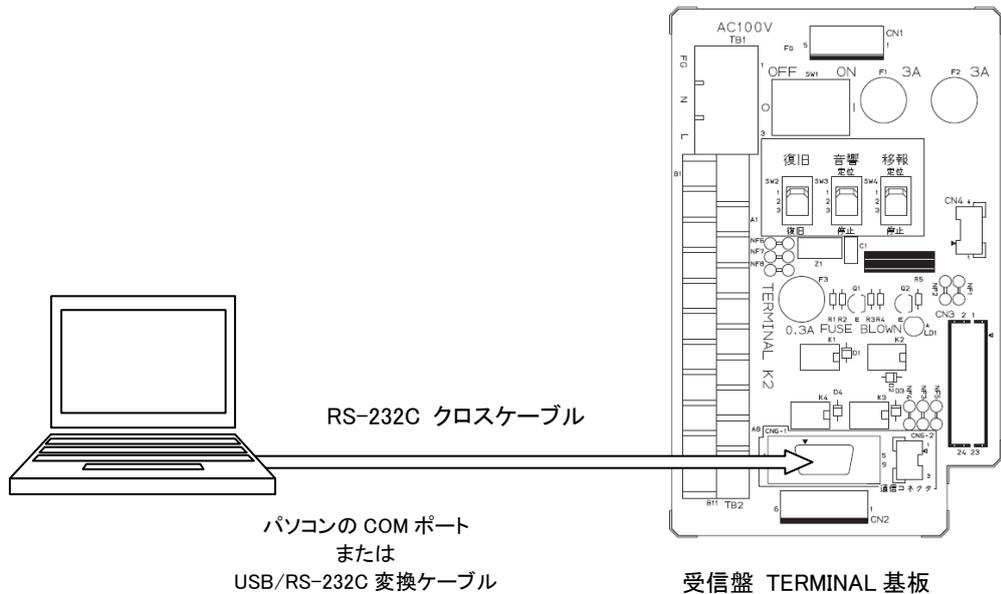
本システムを終了した(電源をOFFした)後、再度起動する場合は60秒以上の時間をあけてください。

## 4. 設定

本項では本システムを使用するうえで最低限設定が必要な項目の設定方法についてご説明します。詳細設定については SAS ソフトウェア取扱説明書を参照してください。なお、設定には SAS 専用の設定ソフトウェア「SAS Tool」が必要となりますので、設定に使用するパソコンに事前にインストールしてください。

### 4-1. PC との接続とソフトウェアの立上げ

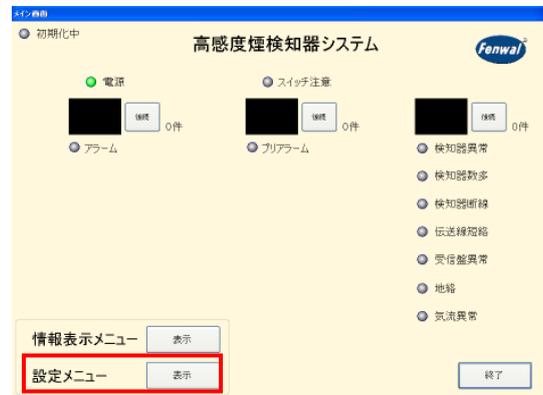
- ① 吸引受信盤内「TERMINAL」基板の CN6 と SAS Tool のインストールされたパソコンを RS-232C クロスケーブルで接続します。



- ② パソコンの SAS Tool を起動するとログイン画面が表示されますので、RS-232C ケーブルが接続されている COM ポート番号を設定してパスワードを入力した後 **OK** をクリックします。設定変更用のメーカーパスワードは「1210」です。

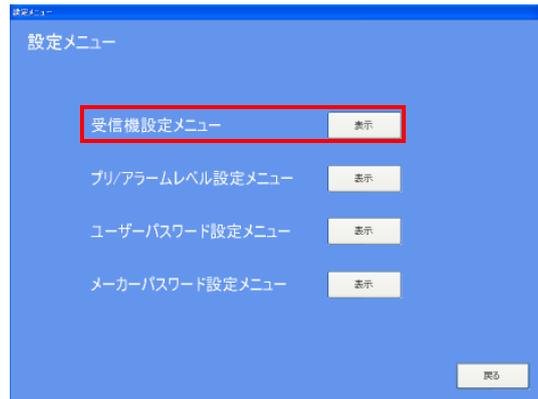


- ③ メイン画面から「設定メニュー」を選択します。



## 4-2. 風速値の設定

- ① 設定メニューから「受信機設定メニュー」を選択します。

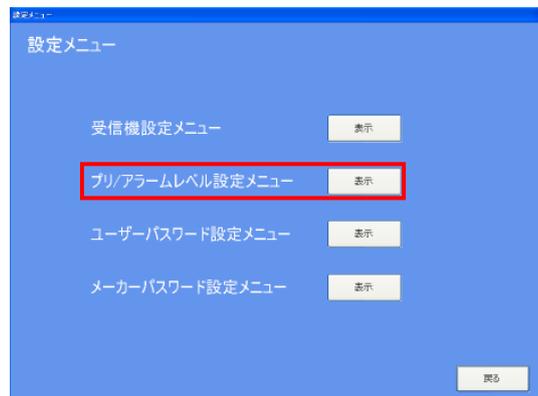


- ② 受信機設定メニューの「気流上限値」と「気流下限値」に気流値を入力し、「受信機へ書き込み」をクリックすると設定が変更されます。入力可能範囲は0.10～30.0m/sです。なお、デフォルト値は上限値が15.0m/s、下限値が0.1m/sです。



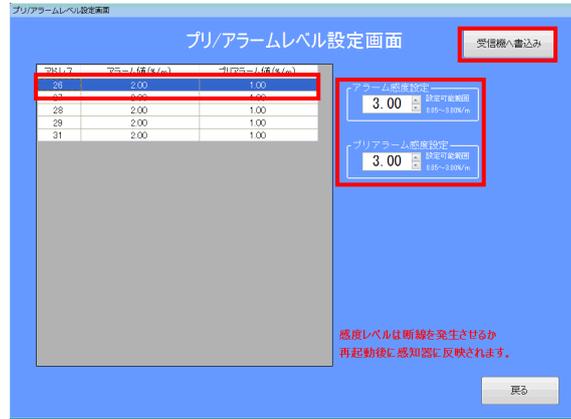
## 4-3. アラーム設定値、プリアラーム設定値の設定

- ① 設定メニューから「プリ/アラームレベル設定メニュー」を選択します。



② アラーム設定値、プリアラーム設定値を次の手順で設定します

- ・ プリ/アラームレベル設定メニューに接続しているアドレスの一覧が表示されますので、プリアラームまたはアラームレベルを変更するアドレスを選択します。
  - ・ 画面左下の「アラーム感度設定」「プリアラーム感度設定」を設定する感度に変更して受信機へ書込みをクリックすると一覧の表示値が書き換わります。
  - ・ 設定値は、検知モジュールを断線→復旧させた後または受信盤を再立上げした後に反映されます。
- なお、デフォルト値はアラームが 2.00%/m、プリアラームが 1.00%/m です。



## 5. アラーム/プリアラーム/ゾーンアラーム表示

本システムが異常を検知すると、吸引受信盤から次の警報が出力されます。  
警報が出力されたら状況を確認して必要な処置を行って下さい。

### 5-1. アラーム

- ・ アラームは吸引受信盤が検知モジュールからアラームの信号を受けた場合に発生します。
  - アラーム灯が点灯する
  - ブザーが連続音で鳴動する
  - アラーム移報を出力する
  - アラームアドレス表示窓にアラームが発生した検知モジュールのアドレスを表示する
- ・ アラームは自己保持しますので、検知モジュールが検出している煙の濃度がアラーム設定値より低く  
なっても復旧スイッチを操作するまではアラーム状態が継続します。

### 5-2. プリアラーム

- ・ プリアラームは吸引受信盤が検知モジュールからプリアラームの信号を受けた場合に発生します。
  - プリアラーム灯が点灯する
  - ブザーが断続音で鳴動する
  - プリアラーム移報を出力する
  - プリアラームアドレス表示窓にプリアラームが発生した検知モジュールのアドレスを表示する
- ・ プリアラームは検知モジュールが検出している煙の濃度がプリアラーム設定値より低くなると自動で復  
旧します。

### 5-3. ゾーンアラーム

- ・ ゾーンアラームは通信障害や、受信盤又は検知モジュールの故障でアドレス認識が不能となった状態  
でアラーム信号を受け取った場合に発生します。
  - アラーム灯が点滅する
  - ブザーが連続音で鳴動する
  - アラームアドレス表示窓に「00」を表示する
- ・ ゾーンアラームはアラームと異なり検知モジュールが検出している煙の濃度がアラーム設定値より低  
くなると自動で復旧します。

アラーム状態、ゾーンアラーム状態である検知モジュールの状態表示灯(赤 LED)は、2 秒に 1 回ずつ点滅し  
ます。また、プリアラーム状態にある検知モジュールの状態表示灯は消灯します。

## 6. トラブル表示

本システムがトラブルを検知すると、吸引受信盤は次の通りに警報を表示します。

- トラブルの内容に対応したトラブル灯が点灯する
- ブザーが断続音で鳴動する
- トラブル移報を出力する
- 検知モジュールにトラブルが発生している場合、トラブル表示窓に当該検知モジュールのアドレスが表示される。

トラブル時の詳細情報(トラブル時の受信盤の盤面表示、及びトラブル内容)とその対処方法については巻末の表をご覧ください。なお、トラブルはその原因が解決されると自動で復旧します(巻末の表で発生時には修理が必要とされているものを除く)。

## 7. 保守点検及び交換部品

本システムが正常であることを確認するために6ヵ月に1度の保守点検を実施することを推奨します。また、機器を正常に動作させるため、次の部品の定期交換を推奨します。

### ① 検知モジュール

交換部品: フィルター

推奨交換期間: 6ヶ月に1回

### ② 吸引受信盤

交換部品: ブロアファン

推奨交換期間: 5年に1回



システムの正常動作のため、保守点検は1年に1回は行うようにしてください。その際、フィルターの交換も行ってください。フィルターが目詰まりすると煙を吸引することができなくなります。

## 13. 連絡先

本システムに関するお問い合わせは、お近くの日本フェンオール株式会社 本社、営業所までお願いします。

**日本フェンオール株式会社**

〒102-0072

東京都千代田区飯田橋 1 丁目 5 番 10 号（教販九段ビル 2 階）

東京本社	:	(03)3237-3565
大阪営業所	:	(06)6534-0777
中部営業所	:	(052)804-8220
信越営業所	:	(0263)72-6244
東北営業所	:	(022)221-3141
九州営業所	:	(092)522-0787
横浜営業所	:	(045)662-3845
柏崎出張所	:	(0257)20-3635
札幌出張所	:	(011)727-9433

トラブルの内容と対処方法の一覧表

電源灯		吸引受信盤		検知モジュール 状態表示灯	トラブル内容	確認事項及び対処方法
電源灯	トラブル灯	吸引受信盤	アドレス表示窓	検知モジュール 状態表示灯	トラブル内容	確認事項及び対処方法
	検知器異常灯 点灯		該当する検知モジュールの アドレス表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当する検知モジュールは消灯</li> <li>その他の検知モジュールは約10秒に1回点灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知モジュール内部の異常</li> <li>検知モジュール感度補正オーバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知モジュールを交換して下さい</li> <li>(注)感度補正オーバーによるトラブルの場合、電源を再投入すると一旦はトラブルを表示をすなくなりますが、翌日に再度トラブルとなりますので交換して下さい。</li> </ul>
	検知器断線灯 点灯		該当する検知モジュールの アドレス表示(検知モジュール以外の要因で断線が発生した場合は表示なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当する検知モジュールは消灯</li> <li>その他の検知モジュールは約10秒に1回点灯</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知モジュール接続数設定スイッチの設定値より、吸引受信盤が認識している検知モジュールの数が少ない。</li> <li>伝送線の断線</li> <li>検知モジュール内断線</li> <li>検知モジュールの脱落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知器接続数設定スイッチの設定値と接続している検知モジュールの数を等しくして下さい。</li> <li>PCラインを受信盤の端子台に正しく差し込んで下さい。</li> <li>PCラインを検知モジュールの端子台に正しく差し込んで下さい。</li> <li>PCラインが断線していないか確認して下さい。</li> <li>アドレスが重複している検知モジュールがないか確認し、発見した場合はその検知モジュールを外したうえで接続個数を再設定して下さい。</li> <li>上記処置により解決しない場合は該当の検知モジュールを交換して下さい。また、原因がアドレスの重複によるものの場合、お近くの弊社営業所までアドレスの変更をご依頼ください。</li> </ul>
点灯	伝送線短絡灯 点灯		なし	消灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCラインの短絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PCラインを確認し、短絡状態を解消してください。</li> </ul>
	受信盤異常灯 点灯		なし	約10秒に1回点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知モジュール接続数設定スイッチの設定値が0か32以上。</li> <li>受信盤のフラッシュメモリが異常。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信盤の検知器接続数設定スイッチの設定値を確認して下さい。</li> <li>検知器接続数設定スイッチの設定値に問題がなかった場合、受信盤の故障ですので修理を依頼して下さい。</li> </ul>
	地絡灯点灯		なし	約10秒に1回点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源の短絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電源またはPCラインが地絡しています。配線を確認し、短絡状態を解決してください。</li> </ul>
	気流異常灯 点灯		なし	約10秒に1回点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロアファン故障</li> <li>検知気目詰まり</li> <li>吸引管の脱落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロアファンが回転していることを確認してください</li> <li>検知モジュールの目詰まりを確認してください。</li> <li>吸引管の接続が外れていないか確認してください。</li> </ul>
	P1(盤内)点灯		なし	約10秒に1回点灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知器接続数設定スイッチの設定値よりも受信盤が認識している検知モジュール数が多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>検知器接続数設定スイッチの設定値と接続検知モジュールの数を等しくして下さい。</li> </ul>
消灯	消灯		'E'又は 'E.'表示	消灯	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信盤のCPUエラー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信盤の故障ですので修理を依頼して下さい。</li> </ul>